

# 令和3年度 中学校 「新しい保健体育」

# 感染症の予防

感染症の予防については、保健編6章(第3学年)で学習します。「新しい保健体育」では、p.148-149「感染症の広がり方」、p.150-151「感染症の予防」、p.152-153「性感染症の予防」、p.154-155「エイズの予防」の4単位時間の中で、十分に思考、判断、表現をすることで、感染症の広がり方と予防についての見方・考え方がしっかりと身につくように構成しています。

そのほか、p.164「免疫と予防接種」、p.165「海外旅行と感染症」、p.165「手洗いの方法」、p.166「SDGsから考えよう」などの章末資料や、Dマークコンテンツによって、感染症予防についての考えを広げ、深めることのできるようになっています。

**活用する**

次の事例で、セントルイスの市長が出した「緊急事態宣言」とは、どのようなものだったのでしょうか。その宣言が有効であった理由についても考えてみましょう。

**資料 5** 1918年のスペイン風邪流行における死亡者数

1918年に、いわゆる「スペイン風邪」とよばれたインフルエンザが世界的に流行したとき、アメリカのセントルイスとフィラデルフィアの二つの都市での死亡者数に大きな差が出ました。セントルイスでは、当時の市長が、市中の発生率が2.2%の段階で市全体に対して「緊急事態宣言」を出し、それによって市全体の死者数を最小限に抑えることができたといわれています。

▲p.151

1918年のスペイン風邪流行時に「緊急事態宣言」の内容と、その宣言が有効であった理由について考える。

予防の基本「手洗いの方法」を写真と動画で解説

▼p.166

**章末資料**

## 4. SDGsから考えよう

SDGsは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)のことで、国際社会共通の目標として、2015年に国連総会で採択されました。持続可能な開発とは、全ての人の暮らしや地球を守りながら、

いろいろな問題を解決して、豊かで幸せな社会をつくるということです。そのために、SDGsでは、下図のように貧困や環境など17のゴール(目標)と、169のターゲット(下位目標)を掲げており、2030年までに全世界での達成を目指しています。

**1. SDGsの17のゴールとターゲットの例**

**3. すべての人に健康と福祉を**

**3.3** 2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び他の感染症、非感染性疾患、精神疾患を根絶するとともに、感染症、非感染性疾患及びその他の疾患の予防に開始する。

**3.4** 2030年までに、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。

**3.5** 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。

**3.6** 2020年までに、世界の道路交通事故による死者数を半減させる。

**各ゴールのターゲットも調べてみよう。**

**2. 自治体の取り組みの例(神奈川県)**

「自分がかかりたくない感染症の予防宣言」

- 目標の中には、保健体育で学習した内容と関連しているものがたくさんあります。学習したことを思い出しながら、なぜ、その目標が大切なのか考えてみましょう。
- 保健体育の学習に関連し、自分がしていることや、できそうなことで、SDGsの目標達成に貢献できることはないか、考えてみましょう。

**例) 手洗いやうがいをして感染症を予防する。**

⇒自分が感染しないことで、感染症の流行を防ぐ。  
⇒「ゴール3 すべての人に健康と福祉を」につながる。

● 今後、自分が取り組んでみたい目標や課題を考えてみましょう。

一人一人の感染症対策の意義について考える例を掲載「自分が感染しないことで、感染症の流行を防ぐ。」

## グローバル化に伴う世界的な感染症流行の可能性と水際対策を紹介

**2. 海外旅行と感染症**

近年、交通網が整備され、世界中の人々が気軽に海外へ行くようになってきました。それに伴い、海外渡航者や輸入された動物などを通して感染症が持ち込まれるリスクも増加しています。

海外では気候や食品など、さまざまな環境が日本とは異なるため、渡航する際には現地の情報を収集し、感染症の予防接種を受けるなど、適切な準備が必要です。それでも感染してしまった場合は、速やかに医療機関を受診して、周囲の人への二次感染を防止することが重要です。

空港や船には検疫所が設置されており、入国する全ての人の検疫を行い、感染症の国内流入を防いでいます。また、入国者の健康相談も行っています。

**Dマークコンテンツ**

- P.148【感染症の広がり方】
- P.150【感染症の予防】
- P.150【手洗いの方法】

**3. 手洗いの方法**

手は、日常生活の中で、病原体が付着したさまざまなものに触れている可能性があります。手から口、鼻などを經由する感染症を予防するためには、正しい手洗いを行うことが必要です。手洗いは、風邪やインフルエンザの予防にも有効です。

**1. 手洗いと指輪**

指輪は、指の間に溜まり、菌がたまりやすいため、手洗いのときに指輪を外すことが推奨されています。

**2. 手洗いの手順**

1. 手全体を濡らす。
2. せっけんを手のひらに取る。
3. 手のひらを洗う。
4. 手の甲を洗う。
5. 指の間を洗う。
6. 指先や爪を洗う。
7. 親指を洗う。
8. 手首を洗う。
9. 流水で、よくすすぐ。
10. 清潔なタオルなどで拭く。

▲p.165

## ● 感染症に関連するDマークコンテンツ

- 149 ページ 病原体の感染と発病 **動画**
- 150 ページ 感染症の予防 **動画**
- 151 ページ 家庭 食品の保存と食中毒の防止 **他教科書リンク**
- 153 ページ 性感染症の予防 **動画**
- 165 ページ 手洗いの方法 **動画**

どのように病原体に感染し発病するのか、アニメーション動画で分かりやすく解説しています。

1918年にスペイン風邪が大流行したときのセントルイス市の取り組みと効果を例に挙げ、感染症の予防について解説しています。